授業科目名・形態	介護の基本Ⅴ　　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	工藤　智美	実務経験の有無	有	開講期	２年前期
科目ナンバリング	W3-2012c				

【授業の主題】

多様で複雑なニーズを抱える対象者への支援にあたり、保健・医療・福祉の多職種や地域の様々な資源との連携が重要とされる背景と意義について理解を深める。また、多職種の役割や機能を理解し、介護福祉職自らの専門性とチームケアの重要性を考える機会とする。

【到達目標】

1）多職種協働による介護を実践するために他職種の専門性や役割と機能を理解する。
2）福祉・医療・保健の他職種や行政機関等とのチームアプローチの意義と連携に必要となる力を理解する。
3）介護従事者自身の安全と健康を維持するための健康管理や労働環境について理解する。

【授業計画・内容】

第 1 回「多職種連携・協働」①・・・介護実践における連携の意義と目的
第 2 回「多職種連携・協働」②・・・多職種連携・協働における社会的背景
第 3 回「多職種連携・協働」③・・・求められる基本的な能力（1）
第 4 回「多職種連携・協働」④・・・求められる基本的な能力（2）
第 5 回「多職種連携・協働」⑤・・・保健・医療・福祉職の役割と機能（1）
第 6 回「多職種連携・協働」⑥・・・保健・医療・福祉職の役割と機能（2）
第 7 回「多職種連携・協働」⑦・・・多職種連携・協働の実際（1）
第 8 回「多職種連携・協働」⑧・・・多職種連携・協働の実際（2）
第 9 回「多職種連携・協働」⑨・・・多職種連携・協働の実際（3）
第１０回「多職種連携・協働」⑩・・・多職種連携・協働の実際（4）
第１１回「介護従事者の安全」①・・・健康管理の意義と目的（法律、制度）
第１２回「介護従事者の安全」②・・・介護従事者の健康管理
第１３回「介護従事者の安全」③・・・ストレスとこころの健康
第１４回「介護従事者の安全」④・・・身体の健康管理
第１５回「介護従事者の安全」⑤・・・職場の労働環境の整備

【授業実施方法】

基本的に講義形式で行う。授業テーマに応じてグループワークや個人ワーク、全体発表などを取り入れ実施します。

【事前・事後学習】

講義内容に関する自主学習（事前学習・復習・課題資料作成・試験対策等）を計 60 時間以上行うこと。

【主な関連する科目】

「高齢者と健康」「コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ」「人間の理解Ⅰ・Ⅱ」「介護の基本Ⅰ」

【教科書等】

「最新・介護福祉士養成講座４介護の基本Ⅱ　」第２版　中央法規出版

【参考文献】

埼玉県立大学：IPW を学ぶ―利用者中心の保健医療福祉連携，中央法規出版，2018
篠田道子：多職種連携を高めるチームマネジメントの知識とスキル，医学書院，2018

【成績評価方法】

筆記試験 70%、課題提出 20%、グループワーク・授業態度 10%により総合的に評価する。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

地域包括支援センター等の在宅領域、及び特養の管理職として、施設内外の多職種との協働により多くの困難事例に対応してきました。本授業ではこれらの経験を活かし、具体的な事例を提示しながら多職種協働の意義を伝えていきたい。

【学生へのメッセージ】

介護福祉の対象となる人々は、専門職が単独では解決できない様々な課題を抱えていることが少なくありません。多職種の専門性や役割について学びながら、チームケアの実践における介護福祉士の専門性や役割を考えていきましょう。